

第1 平成14年度当初予算の概要

予算はどのような考えで編成したのですか。

予算編成の基本方針

平成14年度当初予算は、県単独の新規施策や公共事業の新規箇所など、一部の経費を見送ったいわゆる準通年予算として編成したところではありますが、現下の厳しい経済・雇用情勢や県民の安全・安心の確保など、県政の喫緊の課題については十分に配慮するとともに、事務事業の徹底した見直しや効率化による行政経費の抑制に努めるなど財政の健全性、弾力性にも配慮し取り組むことといたしました。

どのような事業が盛り込まれているのですか。

県政の重要施策

I 地域経済の回復に向けた中小企業・雇用対策

中小企業の経営安定

- ・緊急経営支援融資の拡充（融資限度額の引き上げ、要件緩和）
- ・金融円滑化特別融資の創設（破綻金融機関対策）
- ・モノづくり再生・経営革新企業設備貸与制度の創設
- ・中小企業再生支援プログラムの実施

競争力のある中小企業の育成

- ・モノづくり再生支援プログラムの創設

職業能力開発体制の充実と就業機会の創出

- ・中高年齢者の再就職に向けた企業での職場実習
- ・企業ニーズに対応した在職者訓練の実施
- ・緊急雇用創出特別基金の活用による雇用の創出
- ・ワークシェアリングの推進
- ・コミュニティビジネスの創出支援



大河ドラマ「利家とまつ～加賀百万石物語～」の放送にちなみ、平成15年1月5日(日)まで金沢城公園二の丸広場を会場に「加賀百万石博」を開催中。ドラマの舞台となる石川県の豊かな自然と受け継がれてきた伝統文化を発信します。

II いしかわからの情報発信

加賀百万石文化の再発見

- ・加賀百万石博の開催（金沢城公園 平成14年3月～平成15年1月）
- ・「金沢城四季物語」の展開
- ・「利家とまつ」をテーマとした企画展の開催（県立美術館 9/14～10/27 県立歴史博物館 4/20～6/2）
- ・金沢城研究調査の推進

III 県民生活の質の向上を支える基盤づくり

環境配慮型社会への移行

環境教育の拡充

- ・「環境教育指針」に基づく小・中・高等学校等における環境教育の実践
- ・学校版環境ISOの取得支援

いしかわ子ども自然学校の本格開校

里山ワーキングホリディの実施

自然体験フィールドの整備と自然とのふれあいの推進

- ・川らしい川の復元（手取川ダム、犀川ダムなど）

- ・白山室堂センターの開設（平成14年7月）

県民生活の安全・安心確保

- 警察官の増員（50人）
- 「事故なし・いしかわ」実現県民運動の推進
- BSE対策の推進
- ・牛の個体識別システムの確立など
- 牛乳の異味・異臭の発生原因究明手法の研究・確立
- 廃棄物適正処理対策の強化



石川型健康福祉社会の構築

- 介護保険の円滑な実施と高齢者施策の充実
- ・長寿社会プランの改定
- 子育て環境の整備促進
- ・子ども虐待防止総合対策の強化（未熟児を出産した母親へのカウンセリング実施、民生児童委員による子育て家庭への訪問体制の強化、教員研修の実施）
- ・放課後児童クラブの拡充
- 障害者施策の推進
- ・障害者の情報バリアフリー化の支援

豊かな暮らしを支える基盤づくり

- ゆとりと潤いのある教育の推進
- ・「石川の学校教育振興ビジョン（仮称）」の策定
- ・小中学校における指導の充実（少人数授業の拡大、小学校1年生学級支援講師の配置）
- ・県立学校活性化マイプランの推進

不登校対策の推進

- ・加賀地区における「やすらぎ教室」の開設

完全学校週5日制への対応

- ・土曜ふるさと発見子どもツアーの実施
- ・休日を利用した小学生のボランティア体験活動の実施

男女共同参画社会の実現

- ・条例に基づく苦情処理機関の設置
- ・ドメスティック・バイオレンス対策の推進

全国生涯学習フェスティバル「まなびピア石川2002」の開催

良質な社会資本の整備

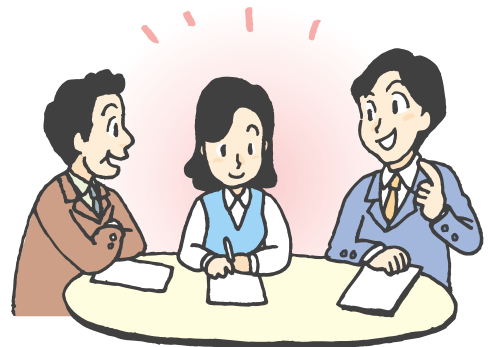
能登空港（平成15年7月開港）の建設促進

小松空港を核とした交流拠点の形成

- ・小松空港滑走路の整備

多重な道路網の整備

- 金沢外環状道路海側幹線・山側幹線、南加賀道路、能登有料道路ゆずりレーンの設置など



IV 地方分権時代にふさわしい新たな行財政システムの構築

新行財政改革大綱の策定

効率的な行財政運営に向けた取り組み

- ・行政評価の本格実施
- ・行政の情報化の推進（業務情報共有システムの本格導入、電子文書管理・電子決裁システムの整備など）

市町村合併の推進